

# 伊賀の自然

## 第6回

### 『サギソウ』 武田恵世

夏休みもそろそろ終わり、行く夏を惜しみたいところですが、まだしばらくは暑い日が続きます。8月末から9月にかけて、伊賀の湿原は花盛りです。



サギソウ

サギソウの花は、シラサギが羽根を広げて求愛ダンスをしている姿に似ています。環境庁により絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危機が増大している種類）に指定されています。ラン科

の多年草で、約20センチの茎の先端に花を1〜2個付けます。花は純白で大きさは約3センチ、葉は細長く先が尖っていて根本から数本出ています。野生のものを見たい方は、三重県上野森林公園の木道の湿原がおすすめです。サギソウのある湿原は、モウセンゴケ、ミミカキグサなど特有の希少植物が多く、ムカシヤンマ、ハッチョウトンボなどの希少動物も多い、貴重なものです。伊賀地方にはまだ10ヶ所前後残っていて、サギソウ約500株の大群落もあります。



サギソウの大群落

生育に適しているのは、粘土層や岩盤の上に砂が薄く積もって、いつも冷たい湧き水で潤され、日当たりの良い肥料分の少ない湿原です。泥深い沼ではダメなのです。サギソウの栽培や移植は難しく、1回花を咲かせて終わる場合が多いようで、特に花のない時期の水管理が難しいようです。1株から数個の球根をつけるので、環境が良く、乱獲されなければ群生しやすいのですが、水源がなくなると致命的です。水源の山や森とともにこれからも大切に守ってゆきたいものです。



比自山



比自山の夕焼け



比自山の紅葉

### 伊賀の山並み 比自山

上野市街地から西を望むと見えるのがこの山です。全体を長田山と呼び、一番高いところが比自山です。戦国時代までは観音寺という大寺院があり、織田信長の伊賀征服に抵抗した伊賀の忍者達が最後の砦を築いたところです。大軍を相手に数日間守り抜き、甚大な被害を与え、最後は玉砕したのではなく、密かに脱出したようです。今でも焼けた瓦の層など激しい戦いの跡が残っています。約30年前までは一面のアカマツ林で、土砂崩れ跡も目立ったのですが、最近はずっかりコナラクヌギの雑木林に代わり、紅葉が美しい山となりました。

### 武田恵世

歯科医師、歯学博士。伊賀市上野桑町で開業。伊賀市環境保全市民会議レッドデータブック作成委員会委員長。環境省希少野生動物種保存推進員。日本鳥学会、日本生態学会会員他。著書に「風力発電の不都合な真実」（アットワークス刊）などがある。